

開館10周年記念

記された想い

～手紙と日記に見る戦中・戦後～

開催趣旨

このたび昭和館では「記された想い ～手紙と日記に見る戦中・戦後～」と題して、平成21年7月25日(土)から8月30日(日)にかけて、特別企画展を開催することとなりました。

戦時中、戦地にいる兵士とその家族が近況を伝えあえる唯一の手段は、手紙のやりとりでした。当時は検閲制度があったため、本心を書くことは難しい状況でしたが、手紙を丹念に見ていくと、家族を思う気持ちだけでなく、手紙には書けない当時の情勢なども感じ取ることができます。

また、日記には戦争の影響で変化していった日々の生活や、終戦後社会が復興してく様子が、そのときの想いととも記されています。

昭和館がこれまで収集してきた多くの手紙や日記等の資料とあわせ、写真や当時を思い出して書かれた絵手紙を展示し、戦中・戦後の生活の様子、人々の想いを紹介いたします。

記

【主催】	昭和館
【会期】	平成21年7月25日(土)～8月30日(日)
【会場】	昭和館3階 特別企画展会場
【入場料】	特別企画展は無料(常設展示室は有料)
【開館時間】	10:00～17:30(入館は17:00まで)
【休館日】	毎週月曜日
【内覧会】	平成21年7月24日(金) 15:00～17:00
【所在地】	〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1
【問い合わせ】	TEL 03-3222-2577 FAX 03-3222-2575
【交通(電車)】	地下鉄【九段下駅】から徒歩1分(東西線・半蔵門線・都営新宿線4番出口) JR【飯田橋駅】から徒歩約10分
【交通(車)】	首都高速西神田ランプから約1分
【ホームページ】	http://www.showakan.go.jp
【その他】	有料駐車場有り(普通乗用車のみ・1時間200円)

展示構成

1 銃後の暮らし

昭和 12 年(1937)に日中戦争が始まったが、人々の暮らしにはそれほど影響は感じられなかった。しかし、身近な人の出征、さまざまな統制の始まりなど、戦争の影響を受けて人々の暮らしは徐々に変化していく。

1 穏やかな日々

日中戦争が始まり、家族や身近な人が出征するということはあったが、銃後の人々の日々の暮らしにはそれほど影響は感じられなかった。

2 変わっていく暮らし（配給、防空演習、学徒動員）

戦争が長期化し、食料品や生活必需品の配給制度が導入され、空襲に備えての防空演習も行われるようになるなど、戦争の影響を受けて変化していった銃後の人々の暮らしを紹介する。

3 親と離れて（学童疎開）

米軍のマリアナ諸島への進攻にともない、日本本土への本格的な空襲の危険がせまった昭和 19 年(1944)6 月、政府は都市部の学童を地方へ疎開させる方針を打ち出した。

親と離れて疎開地で暮らした子どもたちの日々の様子、そして、空襲から子どもの命を護るためとはいえ、幼いわが子を疎開に送り出した親の想いを疎開先の日記、家族でやりとりされた手紙で紹介する。

資料例：配給物絵日記、防空演習についての作文、学徒勤労働員先での日誌
家族で生活について記した短歌ノート、疎開先での日記

	
<p>日記 津田久夫さんの昭和 10 年(1933)の日記。 1 月 21 日に宝塚を見に行き「心の慰安として実によいものだ」と記述している。</p>	<p>はがき 集団疎開で長野県に疎開していた石川靖児さんに家族が送ったもの。家族全員の寄せ書きになっている。 昭和 19 年(1944)8 月 19 日</p>

II 戦地と銃後をつないだ手紙

手紙は戦地の兵士と、離れて暮らす家族が近況を伝えあうことができる唯一の通信手段だった。手紙に綴られたそれぞれの家族の姿を写真やエピソードも交えて紹介する。

※このコーナーではモニターを設置し、手紙・はがきの画像とその朗読で構成した映像を上映する

1 戦地から

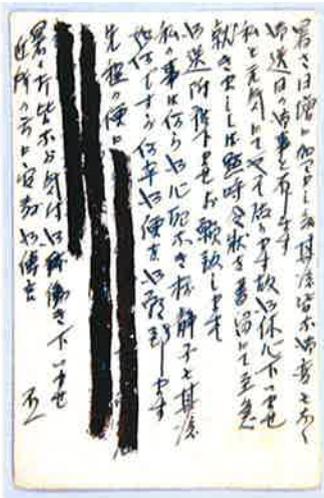
戦地の兵士から家族への唯一の通信手段は軍事郵便だった。検閲制度があったため、書きたいことのすべてを手紙に書けたわけではないが、その内容は離れて暮らす家族への想いがこもったものだった。

2 戦地への手紙

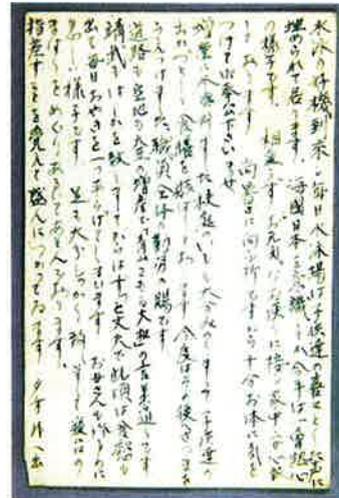
命の保証がない戦地にいる家族に、手紙は残された家族の日々の暮らしを伝え、無事を祈る想いを届けた。

3 ある男女の絆

多くの手紙資料のなかから、婚約中に出征することになったため、離ればなれの生活を余儀なくされた男女（のちに結婚）の手紙のやりとりを紹介する。



はがき（戦地から）
川谷岩一さんが息子の広吉さんに送ったもの。検閲によって塗りつぶされている部分がある。
昭和18年(1943)7月20日（消印）



はがき（戦地へ）
東宮もちこさんから夫の武重さんに送ったもの。
昭和19年(1944)7月8日（消印）